



《ボゼ 鹿児島県十島村悪石島》2006 撮影：石川直樹

まれびと と祝祭

祈りの神秘、
芸術の力

2022年

3月2日(水) — 8月21日(日)

[開館時間] 11時~19時 [休館日] 月・火曜日

高島屋史料館TOKYO 4階展示室 **入館無料**

東京都中央区日本橋2-4-1 日本橋高島屋S.C. 本館4階

高島屋史料館TOKYO主催

[監修] 安藤礼二 (文芸評論家・多摩美術大学教授)

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等を踏まえ、臨時に休館日・開館時間を変更する場合があります。最新の開館状況は、公式ウェブサイトをご確認ください。

高島屋史料館
TOKYO

まれびと と祝祭

祈りの神秘、
芸術の力

2022年
3月2日(水) — 8月21日(日)

[監修] 安藤礼二 (文芸評論家・多摩美術大学教授)

本展では、まれびとと祝祭を現在の視点からとらえ直してみたいと思います。古より人類は、幾度も疫病の脅威にさらされてきましたが、我々は祝祭(祭り)と、その時間的・空間的中心に現れるまれびと(来訪神)を信仰することにより、それらを持ち越える経験を重ねてきました。感染症パンデミックにより、不可避的に閉ざされた関係を強いられている現在だからこそ、改めてまれびとと祝祭に目を向け、これら根源に立ち返ることが、現状を打ち破るヒントになるのではないかと考えます。

まれびとは、民俗学者であり国文学者でもあった折口信夫(1887-1953)が提唱した概念です。折口はそれを、祭祀などに、超現実の世界から現実の世界を訪れて、またもとの世界にかえってゆくという、人間を超えた存在としています。そもそも時間や空間を一新する強大な力を持つまれびとは、もたらし/追いはらう、という両義性を持つ存在でもあります。それはすなわちまれびとが、異物としてもたらされた病でもあり、そしてその病を彼方へ追いはらって救いをもたらず神でもあるということの意味しています。こうした一見相矛盾する概念が同居する状況を、古代から私たちの社会が内包してきたことは、コロナ禍によって混迷した状況を、いま一度立ち止まって考察する契機にもなるでしょう。そして同時にそれは、分野を超越して一つにつなぎ合わせるという、これからの芸術表現の可能性をも示すことになるでしょう。



1



2



3



4



5



6



7



8

① トシドン 鹿児島県薩摩川内市下飯島、2011 ② パートゥ 沖縄県宮古島市平良島尻、2006(①・② 撮影:石川直樹) ③ 創生、1952 ④ 東京店壁画原画、1952(③・④ 画:岡本太郎、高島屋史料館蔵/会期中中で③→④展示替え予定) ⑤ ナマハゲ 秋田、1957 ⑥ イザイホー 沖縄、1966 ⑦ 縄文土器 長野県出土、1974(⑤-⑦ 撮影:岡本太郎、川崎市岡本太郎美術館蔵) ⑧ マスク、1970(作:岡本太郎、川崎市岡本太郎美術館蔵)

【講演会開催のご案内】

会期中、本展を監修した安藤礼二氏(文芸評論家・多摩美術大学教授)によるセミナー(録画映像)のWeb上での公開を予定しています。詳細が決次第、当館HPにてご案内します。

詳しくはこちらから ▶



高島屋史料館TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1
日本橋高島屋S.C. 本館4・5階
※5階旧貴賓室は、対面での
セミナー開催時のみ開館します。

<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo>

【アクセス】

- JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分
 - 東京メトロ 銀座線・東西線「日本橋駅」直結
 - 都営地下鉄 浅草線「日本橋駅」から徒歩4分
- ※駐車場は大変混雑しております。お車の入庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

